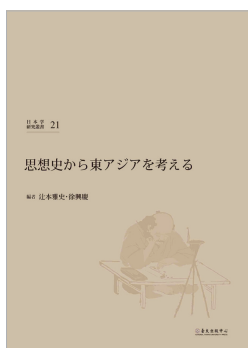


日本學研究叢書 21



「思想史から東アジアを考える」
辻本雅史、徐興慶 編

本書乃運用思想史的方法來思考「東亞」地域的一本論文集。所謂「東亞」，其範圍包括中國、日本、韓國、琉球、臺灣。至今為止，思想、歷史等領域之研究，設問時大多不自覺地以單一國家為單位，本書則有意識地避免此情形。即使研究單一國家，也必定透過比較的觀點為途徑，藉此向外部擴展。亦囊括與西洋近代的相關性及其型態、殖民地、翻譯等議題。以「外部」的觀點發展多樣性的日本研究（「國際日本學」研究），是臺灣大學日本研究中心的發展目標，而本書為其實踐成果之一。◆

本書は、思想史の方法で、「東アジア」という圏域を考えようとした論文集。「東アジア」とは中国、日本、韓国に琉球や台湾を包含した圏域のことである。これまで思想や歴史などの領域では、無自覚なままに一国を単位に問いを立てる研究が多かったが、本書では自覚的にそれは避けられている。一国を取り上げる場合にも、必ず比較の視点を通じたアプローチによって、外に広がる方向を指向している。西洋近代との相関やその形態、植民地や翻訳の主題も取り上げられる。台湾大学日本研究センターは、「外部」の視点から複数形の日本研究（「国際日本学」研究）の展開を目指しているが、本書はそのひとつの実践成果である。◆

日本學研究叢書一覽 (1-20)

1	国際日本学研究の基層—台日相互理解の思索と実践に向けて—	徐興慶、太田登編
2	国際日本学研究の最前線に向けて—流行・ことば・物語の力—	林立萍編
3	日本近現代文学に内在する他者としての「中国」	范淑文主編
4	日本中世文学における儒教道典籍の受容—『沙石集』と『徒然草』—	曹景惠著
5	東アジア龍船競漕の研究—台湾・長崎・沖縄の比較—	黃麗雲著
6	現代日本語造語の諸相	林慧君著
7	転換中のEUと「東アジア共同体」—台湾から世界を考える—	徐興慶、陳永峰主編
8	近代東アジアのアポリア	徐興慶編
9	朱子学と近世・近代の東アジア	井上克人、黃俊傑、陶徳民主編
10	明治日本における台湾像の形成—新聞メディアによる1874年「台湾事件」の表象—	陳萱著
11	日本昔話語彙の研究	林立萍著
12	非断定的表現「(し) そうだ」に関する語用論的考察	黃鈺涵著
13	詩に興り礼に立つ—中井竹山における『詩経』学と礼学思想の研究—	田世民著
14	台湾法における日本的要素	王泰升著
15	石川啄木詩歌研究への射程	林水福、太田登編
16	台湾に生まれ育つ台日国際児のパイリンガリズム	服部美貴著
17	自由・平等・植民地性—台湾における植民地教育制度の形成—	山本和行著
18	帝国日本の教育総力戦—植民地の「国民学校」制度と初等義務教育政策の研究—	林琪禎著
19	日本統治期台湾における訳者及び「翻訳」活動—植民地統治と言語文化の錯綜関係—	楊承淑編
20	東アジア情勢の転換とアベノミクスの影響	蘇顯揚、魏聰哲編

* 在日本欲購買本叢書請洽紀伊國屋書店。
本叢書は日本の紀伊國屋書店でお買い求めいただけます。